

2つの文章を読み比べながら、尾括型と双括型の違いを探るには？



投稿者の先生：三浦 大栄

▶小学校 ▶4年 ▶国語 ▶物語

URL: <https://foresta.education/estanet/essence/detail/15863>

説明

説明文は、大きく「はじめ（序論）・中（本論）・終わり（結論）」の3つに分かれて書かれています。そして、筆者の考え（要旨）がどこに書かれているかによって、3つの型に分けられます。

- ・頭括型：はじめ（序論）に書かれている
- ・尾括型：終わり（結論）に書かれている
- ・双括型：はじめ（序論）と終わり（結論）に書かれている

「双括型」の文章は、4年生に登場してきます。そこで、子どもたちに双括型文章をとらえさせるために、本文の「はじめ（序論）」と「終わり（結論）」をそのまま抜き取った「双括型文章」と、「はじめ（序論）」を話題提示型にリライトした「尾括型文章」を提示します。これは、次の点で効果的と考えます。

- ・尾括型文章には、これまでの説明文教材で読み慣れている（安心感）
- ・2つの文章を読み比べることで、尾括型文章と双括型文章の違いが見つけやすい（焦点化）
- ・2つの文章を読み比べることで、それぞれ要旨がどこに書かれてあるか比較しやすくなる（視覚化・焦点化）
- ・「中（本論）」を省略したことで、焦点を絞って追求できる（焦点化）

黒板に貼った用紙は、個々にも配ります。それに書き込みを加えながらグループ→全体と検討し、筆者が「双括型文章」にした理由を考えることでまとめる時間とします。（共有化）

実践教材は、光村図書4年上『動いて、考えて、また動く』（筆者 高野 進）です。この教材以降、双括型文章を読む機会がぐっと増えるので、4年生の1学期に取り組むことを強くお奨めします。

添付ファイル

